2019 年度 全国科学館連携協議会 東海ブロック研修会 報告書

令和２年２月４日

名古屋市科学館
学芸課学芸係　学芸員　山田　厚輔

以下のように研修会を開催しましたので報告します。

記

１　日時　　令和２年１月１７日（金）～１８日（土）

２　会場　　浜松科学館みらい～ら （静岡県浜松市中区北寺島町２５６－３）

３　テーマ　一般来館者向けイベントを活用したワークショップ（WS）の実演型研修

４　プログラム　資料（１）参照

５　参加者　　資料（２）参照

６　研修テーマの検討

東海ブロックでは、例年、参加館の近況報告や様々なテーマの事例発表などの会議形式を行ってきた。この形式は、タイムリーな話題の意見交換ができる一方、参加館や参加者が固定化しやすい面があり、特にマネージャークラスの参加者は多いが、現場の方の参加者は少ない印象であった。そこで、本年度は思い切って路線を変え、現場の方が参加しやすいように実演形式を検討した。

本テーマ「一般来館者向けイベントを活用した WS の実演型研修」のポイントは、各館のワークショップを「研修会参加者（科学館職員）向け」と「一般来館者向け」に分けて披露する点である。前者は、実演方法や工作過程を披露するのはもちろん、その WS を考案したきっかけ、苦労した点、日頃の実演での反響など、科学館職員だからこそ聞いてみたい内容を織り交ぜて発表を行った。後者は、研修会参加者にとっては日頃の実演と変わらない。しかし、一般来館者にとっては、日頃行くことのできない複数の科学館の WS が一度に体験できるイベントとして認識されるため、満足度の向上や入館者数の増加が期待できる。端的に言えば、前者は研修会参加者に、後者は会場館にメリットがある。

７　参加館数向上の仕組み

本テーマの効果を最大限に発揮するには、多くの加盟館に参加していただくことが重要である。数が多いほど、情報交換は活発化し、イベントは大きくなる。そこで、参加館数を増やす仕組みを以下にまとめる。

（１）ブロック活動助成金による材料費等の補助

WS を実施するためには、消耗品や工作材料が必要となる。そこで、事務局より支給されるブロック活動助成金を活用し、参加館への補助を行った。これにより、参加館の持ち出しをなくすことが期待でき、かつ、来館者の参加費を徴収する必要がなくなり参加者増にもつながる。実際、研修会参加者に行ったアンケートでも、この仕組みに対し非常に好

意的な意見が寄せられた。その一方で、材料費だけでなく、交通費や宿泊費も包括できるような助成があると参加館の増加が期待できるという意見もあった。この意見は大変理解できるが、連携協内における様々な事業の展開を考えると、交通費や宿泊費を全参加者へ助成するのは極めて難しいのが現状である。この点を把握した上で、より良い事業や連携のため、今後も様々な議論を行う必要があると感じる。

（２）レシピシート

参加館の参加理由のひとつとして、各館のレシピを参考にして新たなWSを開発したい点が予想される。しかし、日々の業務に追われる中、新しいネタを１から開発することは、なかなか難しい。そこで、WSの内容をまとめたレシピシートをA4 2～４枚程度にまとめたものを全ての参加館に作成いただいた。そして、参加者限定のお土産として配布を行った。これにより、参加館数の向上も期待でき、さらに、研修会参加者向けの発表時に頑張ってメモしなくてもレシピが手に入るため、それ以外の部分の発表が充実できる。

（３）評価表

日々の実演の中で、体験者の様子や対話からその実演の良し悪しなどは、ある程度感じることができる。しかし、他の科学館施設の職員による評価などは、なかなか得られない。そこで、研修会参加者向け披露時に評価表を配布し、参加館の発表に対して評価をし合った。評価内容は、コメント式とし、良かった点、改善できる点の２点に絞った簡単なものとした。この評価表は、２日目に参加館へ配布を行った。

８　研修会内容

前置きが長くなったが、研修会当日の様子を以下にまとめる。

（１）１日目：WS披露および評価

浜松科学館みらい～ら ものづくりラボにて、研修会参加者向けのWS披露を行った。参加館は、それぞれ思い思いの発表を行い、非常に良い雰囲気であった。狙いの通り、失敗談や来館者の様子、材料の仕入れ先など職員らしい質問やコメントが飛び交う素晴らしい会となった。

例として、会場館の浜松科学館みらい～らからは、牛乳パックを利用した和紙づくりのものづくりWSが披露された。発表者の同館 事業企画グループ 上野元嗣から、各工程における様々なポイントが説明され、体験時間の設定により体験工程を決められるといった工夫も伝えられた。また、同氏のキャラクターを活かしたテンポの良い発表の仕方も参加者には参考になった。WSの内容だけでなく、演示面も参考にできる可能性を感じた。

図１　発表の様子

図２　演者を囲む聴講者

図３　実際の実演を見せる参加館

図４　体験者と同じ体験をする参加者

（２）１日目：会場設営

披露の後、イベント会場であるみらい～らコアへと移動し、会場設営を行った。会場設備は、各館に会議机１台と椅子任意数を貸し出し、施設名称や WS タイトル、内容などを記載したサインを準備した。なお、材料や工具は、全て参加館に用意いただいており、ほとんどがハンドキャリーにて持参いただいた。一部、郵送を利用した参加館もいる。

（３）１日目：情報交換会

会場館周辺のお店にて、情報交換会を行った。本年度は、来館者動向などを発表し合う場をプログラム内に設けていないため、非常に活発な情報交換が行われた。

（４）２日目：館内見学、浜松名古屋コラボサイエンスショー

午前中は会場館常設展示の自由見学および希望者のプラネタリウム鑑賞を行った。また、サイエンスショーにて、浜松と名古屋のコラボサイエンスショーを行った。今後のテーマでは、ワークショップの他にもサイエンスショーも扱う可能性があるため、その検証材料とする。

（５）２日目：一般来館者向け WS 披露（イベント名：特別ワークショップまつり）

一般来館者を対象としたイベント「特別ワークショップまつり」をみらい～らコアにて開催した。イベント概要を以下にまとめる。

イベント名：特別ワークショップまつり
日時：令和２年１月１８日（土）１３：００～１５：００
会場：浜松科学館みらい～ら　みらい～らコア
参加費：無料（全てのブースが無料で体験できる、科学館入館料は別途必要）

イベント名や広報は、会場館に一任した。この点は、今後協議する必要がある。広報は、会場館の負担となるが、来館者にとっては連携協のイベントではなく、会場館のイベントとして捉えるため、その線引きは難しい。時間は、日々の来館者動向や出展者の負担から午後に２時間とした。

みらい～らコアは、図５の通り、科学館の真ん中に位置し、展示室や廊下から何をやっているかよく見える作りとなっている。つまり、全ての来館者の目にとまるため、今回のようなイベントには最適な場所と考える。また、参加費は、無料とすることでイベントへの参加者数増加を狙った。

結果として、当日の入館者数の約 75%にあたる 748 名がイベントに参加した。会場は、常時来館者が溢れかえる非常に活気にあふれた様子であった。研修会参加者は、溢れる来館者の対応に追われたが、大きなトラブルもなくスムーズに対応していた。また、1 日目の評価に対し、様々な対応をしていたブースも見受けられ、早速研修の成果を発揮していた。また、会場館の職員が立ち代り見学に来ており、その期待の大きさが伺えた。

図５　イベント全景

図６　ものづくり系ブース

図７　実演系ブース

図８　プログラミング系ブース

９　アンケート

研修会参加者にアンケートを取り、今後の運営に活かす。結果として、ほぼ全ての方から、今回の内容に満足し、今後も参加したいという旨のコメントをいただいた。また、ワークショップだけじゃなく、サイエンスショーなども取り上げたいという意見もあった。これらを踏まえ、幹事館を中心に、来年度以降の研修内容を検討していく。

また、今回、他ブロック（関東ブロック）からの参加が１館あった。筆者も、本年度の中四国ブロック研修会に講師として派遣いただき大変参考になる点が多数あった。今後も、同様なテーマを行う際、ぜひ他ブロックからの参加を心より期待している。

以上